

モンゴル国紀行

VI. かの国に建つ日本人死亡者慰霊碑の記

江戸ソバリエ協会 理事長
ほしひかる

私たち一行は、ウランバートル市北部のダンバダルジャの丘陵地に建つ「日本人死亡者慰霊碑」を訪れ、お参りをしました。

死者数 5,000 万人とも 8,500 万人ともいわれています第二次世界大戦、それが終結した 1945 年の夏、旧ソ連は旧満州(現中国東北部)などにいた約 60 万人の日本人を旧ソ連領内やモンゴルに送り込みました。モンゴルでは約 1 万 4000 人が強制労働に従事させられ、終戦直後 2 年間で約 1,700 人が抑留死したと推計されています。モンゴル国内には日本人墓地となっていた場所は 16 カ所ほどありましたが、このダンバダルジャが一番多く埋葬されていたことから、2001 年(平成 13 年 10 月 15 日)、この地に日本政府は「日本人死亡者慰霊碑」を建てました。丘の中ほどには「先の大戦の後 1945 年から 1947 年までの間に祖国への帰還を希みながらこの大地で亡くなられた日本人の方々を偲び平和への思いをこめてこの碑を建設する」という一文が日本語とモンゴル語で刻まれています。

シベリア抑留につきましては、体験者である画家香月泰男の絵画などから漠然と目で想像していましたが、モンゴル国での犠牲者のことはまったく知りませんでした。ですが、つい先日の 7 月 8 日に天皇皇后両陛下が当地の日本人死亡者慰霊碑に供花されたことがニュースで流れていたことから、少しだけ耳に入ってきました。



《日本国天皇皇后》

《献花》

それによりますと、日本人捕虜たちは主に建設労働に従事させられたらしく、

官邸、外務省、国立図書館、モンゴル国立大学などが日本人捕虜の手によって建てられたのだといいます。ただ、モンゴル国の方も、国として捕虜を扱った経験がなく、また小国としては経済的に負担が大きかったといいます。それにしても夏は40° C、冬はマイナス30° Cにまで達する厳しい気候のなかでの過酷な労働、追い打ちをかけるような栄養不良、捕虜たちの戦争の代償はあまりにも残酷なものだったことがうかがえます。

昭和30年代に建てられたとされている古い碑文「諸士よ。祖国日本は見事に復興しました。安らかに見守ってください。」という遺された関係者の慰めの吐露は、現代の私たちにも厳粛に響きます。



《昭和30年代の碑文》

それとともに、ダンバダルジャの丘陵地に「日本人死亡者慰霊碑」建立を認めてくれたモンゴル国は大きな国だと思いました。

『ねじまき鳥クロニクル』でシベリア抑留について触れています村上春樹は、これまで「壁のない世界を」と訴え、「魂が行き来する道筋を塞いでしまってはならない」などと述べているのは、このようなことかも知れないと思ったりしました。

「国境」などという言葉は事務的便宜上のことであって、人間としては、線を引いて、仲間を敵味方に分けてはいけません。分けてしまったら、悪口を言ったり、棒で殴ったり、石を投げたりすることが始まります。

それは慰霊碑の言葉を裏切ることになるのです。

「諸士よ。祖国日本は見事に復興しました。安らかに見守ってください。」

以 上

[参考]

村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』（新潮文庫）